

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 陽風会

社会福祉法人陽風会 事業報告

1. 法人理念

当法人は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重し、総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援します。

また、社会福祉事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上及び事業経営の透明化を図り、もって地域福祉の推進に努めることとします。

2. 重点項目

新型コロナウイルスについて、継続して質の高い高齢者福祉サービスを提供するため、協力医療機関の医師・看護師等の助言・指導の下、情報収集に努め、感染予防・感染拡大防止対策を行いました。令和4年7・8月にかけて複数の施設で新型コロナウイルスの罹患者は発生したが、協力医療機関の感染対策本部や沖縄県コロナ対策本部の協力、指導の下、より具体的な感染対策や感染拡大時の優先業務の見直しを行うことが出来ました。

3. 取組と成果

(1) 規程等の整備・改定

育児・介護休業法の改正に伴い、育児介護休業規程の改定を行いました。

また、令和4年10月から新たに介護職員等ベースアップ等支援加算を取得するために、給与規定の見直しを行い、介護職員処遇改善手当等と合わせて支給しております。

(2) 事業の廃止

有料老人ホーム星の館の廃止について、公益事業を行うにあたり、社会福祉事業の円滑な遂行を妨げないよう従前より経営改善に取り組んでおりましたが、令和4年5月で協力医療機関の訪問看護部が廃止となり、入居者数や職員の構成等に大幅な変更が生じました。そのため質の高い福祉サービスの提供が困難な状況となり、施設運営について検討した結果、令和5年3月31日で有料老人ホーム星の館を廃止することといたしました。それに伴い、定款及び経理規程の変更を行っております。

(3) 業務委託

平成30年4月より受託している那覇市地域包括支援センター新都心のプロポーザル審査にて、令和5年4月より5年間受託することとなっております。

4. 評議員会

令和4年6月23日(木)

①計算書類の承認について

②社会福祉充実計画の承認の件について

令和5年2月20日(月) ①有料老人ホーム星の館の廃止に伴う定款変更

5. 理事会

令和4年6月8日(水) ①事業報告の承認
②計算書類の承認
③社会福祉充実計画の承認
④評議員選任・解任委員会へ評議員の推薦

令和5年2月10日(金) ①有料老人ホーム星の館の廃止について
②有料老人ホーム星の館の廃止に伴う定款変更
③臨時評議員会の書面開催、日程、議案等について

令和5年3月25日(土) ①補正予算について
②令和5年度事業計画について
③令和5年度予算について
④経理規定の改定について

6. 監事監査

令和4年5月30日(月) 理事会への報告：令和4年6月8日
評議員会への報告：令和4年6月23日
法人所轄庁への報告：令和4年6月30日

7. 評議員選任解任委員会

令和4年6月15日(水) ①評議員の選定について

《法人の概要》

平成18年 3月 社会福祉法人陽風会、那覇市牧志3丁目8番10号に開設

《事業の概要》

平成19年 4月 軽費老人ホーム「ケアハウス常夏の島」を開設、運営する
平成20年 9月 小規模多機能型ホーム牧志を開設、運営する
平成21年 4月 那覇市末吉老人福祉センターの指定管理を受託、運営する
那覇市壺川老人福祉センターの指定管理を受託、運営する
那覇市辻老人憩の家の指定管理を受託、運営する
平成29年 6月 有料老人ホーム星の館を開設、運営する
平成30年 2月 特別養護老人ホーム前島を開設、運営する(指定は1月)
平成30年 4月 那覇市地域包括支援センター新都心 受託
令和 5年 3月 有料老人ホーム星の館を廃止

ケアハウス 常夏の島

利用者 定員 50名

年間稼働率 90.3% (目標稼働率 95%)

平均介護度 3.03

1. サービス利用実績

(1) 月別利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用人数	51	50	51	51	50	47	47	50	53	51	51	51
入院者のべ日数	63	92	91	61	92	20	59	46	47	88	10	13
のべ利用日数	1295	1271	1323	1470	1331	1275	1372	1374	1457	1457	1358	1540
稼働率 (%)	86.3	82	88.2	94.8	85.9	82.3	88.5	91.6	94	94	97	99.3
入所	2	3	6	2	1	4	2	3	6	1	2	1
退所	5	4	2	2	8	2	0	3	3	2	1	1

(2) 利用者介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計人数	51	50	51	51	50	47	47	50	53	51	51	51
要支援1												
要支援2												
要介護1	3	3	3	4	4	3	2	1	1	1	1	1
要介護2	13	13	14	13	12	12	11	11	10	10	11	11
要介護3	21	20	20	20	20	17	18	21	23	22	20	20
要介護4	10	9	11	11	11	11	12	12	13	13	13	12
要介護5	4	4	3	3	3	4	4	5	6	5	6	7
申請中												
平均介護度	2.92	2.9	2.94	2.92	2.88	2.78	2.92	3.18	3.25	3.22	3.24	3.25

2. 施設運営状況

- (1) 稼働率について、年度初めの4月から6月、8月から10月まで80%台、7月、11月から、3月は90%台であり、目標達成できた月が前年度と比べ低かった。入院日数が長期間となった利用者が多く、空床期間が1か月以上となる状況が発生したこと事や、7月後半に新型コロナウイルスによるクラスター発生の為、新規案内の調整・入所に時間がかかってしまった事が原因となり、年間目標未達となった。また、入居者様の身体機能、認知レベル等日常生活していく中でのアセスメントを強化し、見極めを慎重に行い入居者様、家族様との連絡を密に行い区分変更について提案することで、必要に応じ正確な区分変更を行うことができ前年度より平均介護

度が0.10上がった。

- (2) 感染症対策に力を入れ、積極的に内部研修や勉強会等を実施し、感染症予防を強化、日常生活上のサービス向上や安全の配慮に努めました。新型コロナウイルス感染症で7月後半から8月にクラスター発生。県コロナ対策本部施設支援班より看護師2名の応援が来てくれ、具体的な感染対策や改めて優先業務を確認した事で、感染対策の見直しを行い早期対策ができています。
- (3) 人材育成について、新型コロナウイルス感染予防の為、外部研修への参加や内部研修等も制限されていたが、日々の業務（申し送りや勉強会）や資料を配布し、レポートを提出してもらうなど工夫し、職員の知識及び認識の向上に努めた。
- (4) 施設設備について、老朽化した設備は環境整備の観点より、優先順位をつけ順次修理・入替等の対応を行った。

3. 利用者支援状況

- (1) 新型コロナウイルス感染対策の為、外部からボランティア等の受け入れが出来なかったが、密にならない様、少人数のグループに分け、レクリエーションやイベントを行った。また、リハビリとしてのレクリエーション活動を取り入れ、多職種連携し入居者様の身体機能向上に取り組むことが出来た。
- (2) 個別ケアを重視し、入居者様個々に、居室担当責任者を設置し、入居者様個人とのコミュニケーションを密に、また他職種の視点から入居者様のニーズにあった支援を心がけ、サービス提供を行った。
- (3) 新型コロナウイルス感染予防の為、ご家族様も参加していただくイベントや面会等が制限されたが、入居者様や家族様からの要望や意見を取入れ、窓越しでの面会やお電話での連絡などを行い、入居者様や家族様の満足度の向上に努めた。

4. 行事・レクリエーション

	行事		行事
4月	おやつ会	10月	運動会・おやつ会（ヒラヤーチー）
5月	父の日・母の日会	11月	誕生会（10・11・12月生）
6月	誕生会（4・5・6月生）	12月	クリスマス会・忘年会
7月	七夕夏まつり	1月	新年会・おやつ会
8月	誕生会（7・8・9月生）	2月	節分・誕生会（1・2・3月生）
9月	敬老会	3月	ひな祭り

5. 職員研修

実施月	研修内容等
4月	倫理・法令遵守・接遇について
5月	事故等緊急時対応について リスクマネジメント・拘束
6月	感染症について(基礎知識、ノロウイルス、尿路感染)
7月	急変時について
8月	褥瘡・ポジショニング・体位交換について
9月	権利擁護、高齢者虐待、身体拘束について
10月	認知症及び認知症ケアについて 褥瘡について
11月	プライバシー保護について
12月	感染症について(基礎知識、インフルエンザ)
1月	誤嚥について 口腔ケアについて
2月	身体機能の維持・支援方法について
3月	認知症について

実践報告

1) 重点目標

実践報告 (4 できた 3 まあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった)

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	適正な運営	①	施設設備、人員配置などの 基準の確保	コロナ感染対策を強化し、環境整備の観点より優先順位をつけながら順次実施できた。長期的な視野で欠員状況管理を行い早期に採用活動につなげていく事ができた。	3
		②	職業倫理や法令遵守	コロナ禍の為、職業倫理・法令遵守(コンプライアンス)資料を配布し個々に学んでもらった。	3

				又、業務内において職業理論や法令遵守について話し合う機会が多くあり、周知する事ができた。	
		③	連携体制の確保	職員の連携により、入居者様の情報をそれぞれの分野からの視点を持って話し合い、共有することで、入居者様の不穏、転倒事故等を減らす取り組み、緊急性の有無や受診科の判断、早期に医師への取次ぎなど、適格な対応をする事ができた。	4
		④	秘密保持及び個人情報の適切な取り扱い	コロナ禍の為、資料配布にて個々に学んでもらい、主任、副主任より、日々の業務にて指導を行う事で、個人情報保護に対する意識を高める事ができた。	3
		⑤	緊急時・災害時対応	コロナ禍の為、資料を配布し個々に学んでもらうなど、全職員が緊急時マニュアル、災害時マニュアルを確認する事で、意識向上を図る事ができた。	4
		⑥	自己評価・点検の実施による改善	契約更新時の面談で主体的に取り組む目標を設定し、概ね目標を達成できている。	3
2	サービスの質の向上	設備・物品について	老朽化に伴う不具合等を確認し、安全・衛生の確保に努める	優先順位をつけながら順次実施できた。	3
			入居者様が快適に過ごせる空間作りをする	資料配布や日々の業務において、口頭で説明・指導し、入居者様と接する際のマナーの向上を促している。 又、入居者様を十分に把握するために1人1人介護スタッフを受け持ち制（居室担当）にし、入居者様、家族様に寄り添う事で、その人らしい生活が出来るよう支援している。	3

	ケア内容について	利用者本位のサービス提供に努める	職員本位にならないよう入居者様本人の思いを尊重し、多職種で連携し、サービス提供を行えた。	3
		入居者様の各々に合う支援方法にてサービスを提供する（個別支援）	多職種で連携し、本人の心身状況に合わせたケアを行う事が出来た。	3
	レクリエーションについて	季節感のある行事や個別支援でのレクリエーション活動等、入居者様がより楽しめるよう、入居者様の意見を取り入れる等して計画し、実施する	感染症対策で密にならないよう配慮し、小グループに分け実施行った。入居者様へのストレス発散ができる様な、レクリエーション等を職員全体で考え実施する事ができた。	3
		楽しみとしてのレクリエーションだけでなく、身体機能の向上を視野にリハビリとしての活動も取り入れる	身体機能の維持として行っている事が多く、リハビリ意欲が向上するような活動も取り入れたが、施設内でコロナが発生する事があり、思うように取り組めないことが多かった。	2
	人材育成について	計画的な研修にて職員の知識・能力の向上を図る。また、多くの職員が参加できるように努める	コロナ禍ではあるが、外部研修等の資料を準備、配布し、多職種で情報共有することが出来た	3
		自発的に学ぶ姿勢を持ち、多職種にて連携を図れるように報告・連絡・相談を密にする	職員の認識が高まり、多くの分野において改善が著明となりました。	3
		職員面談の機会を増やし、目標設定と評価を定期的実施する	職員の「業務姿勢に関する自己評価シート」を実施した。	3
		自己評価を実施し、改善に努める	上記同様。	3

3	利用者満足度の向上	①	季節感を楽しめ、ご家族も参加できる企画を計画する	コロナ禍ですべて中止とした。	2
		②	利用者様やご家族様からの意見を傾聴できる機会を作る（アンケートや面談）	コロナ禍での面会の仕方などご家族からいろいろご意見を頂けた。参考に満足度の向上に努めている。	3

2) 個別目標

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	介護	①	入居者の個人の尊厳を尊重し、傾聴の姿勢にて接遇のマナーを正し、信頼関係を築く	コロナ禍で会合禁止の為、接遇についての資料を全職員へ配布行い勉強会実施。 日頃から、言葉使いに気をつけ、傾聴する姿勢に気を付け、職員間の情報共有を密にし、入居者様と個々に信頼関係を築いて行くことが出来ている。	3
		②	入浴 安全に安心できる環境で快適に入浴ができるように、個人のADLに追った方法で支援する	入居者様がリラックスして入浴が出来るよう入浴場、脱衣場の環境を常にきれい整理し、入居者様の個性・入居者様同士の相性など考慮し、入居者様の意見を職員全体で、聞く事で情報共有する事が出来支援出来ている。	3
			排泄 不快なく気持ちよく過ごせるよう、適切な回数やおむつの当て方に気を配って対応する	入居者様ごとに排泄パターンの把握に努め自立支援を用いた対応で介助・見守りができた。オムツの当て方など、日々試行錯誤を繰り返し実践に取り組んでいる。	3
			食事 入居者一人一人に合った食事の提供が行えるように、支援する	入居者一人ひとりの食事形態や、嚥下・ポジショニング等を、多職種で確認し情報を共有できた。 又、入居者様へ声掛けを行い、入居者様の訴え等を傾聴し改善策を提案し一部介助が必要であった、入居者様が自分の力で食事を	3

				食べられるまでに至った。	
		③	日頃より報告・連絡・相談にて職員間でのコミュニケーションを密にし、多職種連携を図る。また、記録を適切で正確に行う	記録もれや口頭申し送り漏れ等があったが、職員間での声掛けを増やし多職種連携強化に努めた。	2
		④	行事や日々のレクリエーションの企画内容を工夫し、季節感があり、家族も一緒に楽しめるものを提供する	日々のレクにはまだ工夫が足りずいろいろ考えていきたい。家族様参加については、コロナ禍の為実施できなかった。	2
		⑤	内部・外部研修等へ積極的に参加し、より専門的な知識を身につけ、実践へ活かす	外部研修はコロナ禍の為、参加できなかった。内部研修は資料を参考に実施しレポートを提出する形をとった	3
2	看護	①	かかりつけ医や訪問診療医との連携を密に行い、入居者の健康維持に努める	「食べる」「睡眠」「住居環境」「創傷」「入居者様本人からの訴え」等、バイタル測定時や何気ない会話からも常に把握し、緊急性の有無や受診科の判断・医師への取次ぎなど臨機応変で的確な対応をすることが出来た。施設内で行える最大の医療行為は日々出来た。	4
		②	多職種との連携にて、入居者・家族の意向に添った医療の提供に努める	定期的に入居者様の意向や適性を確認した上で中心となる家族様へ病状説明、病院受診相談を行った。 入居者様本人、ご家族様に寄り添うことでその人らしい生き方ができるよう援助していた。多職種との連携強化出来ており、それぞれの分野からの視点を持って話し合い個々にあった援助をすることが出来た。	4
3	機能訓練	①	入居者の心身状況に応じて、日常生活を営むために必要な機能を改善、または	施設内で新型コロナウイルス感染が発生する事があり、思うようには機能訓練が出来なかった。	2

			減退を防止し、快適に生活できるように支援する		
		②	入居者・家族に機能訓練の実施に対する満足度を把握し、計画に反映する。また、計画や実施状況は分かりやすく説明するように心がける	感染対策で家族様が施設に訪問する機会が制限され、直接説明する機会は設けられなかったが、計画書や実施状況の説明は郵送、電話などで対応した。	3
4	生活相談	①	入居者・家族との定期的な面談の機会を作るなどして、相談しやすい環境づくりに努める	入居者様の居室へ訪室して、入居者様の話を傾聴したり、入居者様の状態をご家族様へお伝えしたりと、相談にのる事が、定期的実施できた。	3
		②	入居者の福祉・医療ニーズの充足のため、他機関との連携を図る	各職種と情報共有し、入居者様の状態把握に努め、異変や何らかの兆候があった際には、早めに受診するなどの対応をした。入院時や退院時、入院中のフォローも積極的に行うよう努めた。	4
		③	施設運用効率の向上を目指し、計画的な入退所の支援を実施するように努める	施設内でコロナウイルス感染者が発生し、スムーズな入退所支援が出来ない期間があった。また、入所までに時間を要する事が多かった。	2
5	介護支援専門員	①	担当者会議を円滑に開催する為の仕組みを確立する	新型コロナウイルス感染対策関連もあり、家族様の担当者会議の参加が出来ず、本来の形では実施出来なかった。意向の確認やケアプランの説明同意は出来ているが、確立できていない。	3
		②	重度化防止・自立支援の視点を踏まえたプランニングをする	入居者様の出来ることの促しや声掛けに重点をおいたプランニングを心がけ、重度化防止に取り組むことが出来た。	3
		③	入居者の QOL 向上を目指し、多職種と連携して取り組む	多職種間で入居者様の希望・目標、「やりたい、役に立ちたい」気持ちを聞き取り、支援に取り組むことが出来た。	3

				居住環境の改善の取り組みも同様に出来ている。	
6	栄養	① 個々に応じた食事の提供	多職種との連携を図り、病態や形態、嗜好を踏まえ、ここに合った食事を提供する	病状を把握し、治療食への変更、又、個々に合った形態をお試し提供を行い、評価し変更等行った。	3
			給食会議において、食事内容変更の検討・相談を行う	多職種と相談し、個々へ合った食事を素早く提供し、モニタリング・アセスメントする事が出来た。	3
		② 質の向上	残食量チェックや検食実施、聞き取りによる献立の見直し	毎日の残量チェックにより残の多い食材を別の食材へ見直し検討している。	3
			年2回の嗜好調査の実施と献立への反映	10月・3月に嗜好調査実施。調査より、人気のないメニューを献立より省き、別メニューを組み込んだ。	4
			季節感のあるイベント食の実施	毎月イベント食を設け、正月、お盆・敬老の日や季節の味覚といった食事を提供している。	4
			内外部のセミナー等への参加にて、栄養士としての専門性の向上に努める	外部のセミナー等に積極的に参加出来た。	4
		供 ③ 安心安全な食事の提供	衛生管理の実施と記録	当日の介護リーダーが記録のチェックを行い、毎月栄養士へ提出し、記録を確認している。	4
			毎月一回の検便の実施(調理員)	毎月、全員提出されている。	4

			委託業者の調理や盛り付け、衛生教育に関する内部指導の依頼	ノロウイルスなどその時期に応じた感染症や、他事業所での事故やクレームなどの情報共有などの教育が行われている。	4
		④ 入居者の栄養状態の維持、改善を図る	毎月の体重測定の記録を確認し、適正体重以下の入居者に対して原因を追究し、多職種連携し改善に努める	体重増加の方の原因を追究し、食事介入により、体重コントロールを行い改善することが出来た。	4
			定期受診時の結果に応じて、低栄養状態等の確認を行い、主治医・看護師への相談にて対応を検討する	血液検査結果に基づき食事状態や摂取量、完食等の相談、検討を行い、食事種類やエネルギー変更を行っている。	4
7	事務	①	窓口や電話の対応にて相手に不快な思いをさせないように努めて対応する	忙しい時ほど、笑顔・笑顔を心掛け対応に努めた。請求書等、説明時には、わかりやすい文言を添えるなど工夫をしてスムーズな意思疎通ができる様に努めた。	4
		②	施設の入り口であるロビーや事務所、トイレ等の清掃を徹底し、環境整備に努める	多職種と連携し、業務の合間に消毒と清掃をこまめに実施。	4
		③	個人情報の取り扱いは細心の注意をもって取り扱う	個人情報等は人目に触れぬ様、保管棚へしまう事が出来ている。FAX送信の際も誤送信がない様、FAX番号の再確認と送信後の確認も怠らずに出来た。	4

3) 会議・委員会

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	安全対策委員会 (月1回開催)	①	入居者・職員の安全対策全般に関する事項の協議	毎月の事故報告・ヒヤリハットを集計し、その報告書を元に事故の原因追究を行い再発防止に向け、職員全員で取り組んでいる。	3

		②	安全対策に関する教育の企画と実施	毎月の事故報告・ヒヤリハット結果を全職員にて確認し、その報告書を元に事故の原因追究結果を全職員で共有する事で職員の危険予知向上出来ている。 コロナ禍で会合禁止の為安全対策に関する資料を配布し資料を参考に実施しレポートを提出する形をとった。	3
2	身体拘束廃止委員会 (月1回開催)	①	入居者の身体拘束廃止全般に関する事項の協議	身体拘束をしない環境継続する為、身体拘束に関する資料を職員へ配布し、資料を参考に実施しレポートを提出する形をとっている	3
		②	入居者の行動制限廃止全般に関する事項の協議	入居者様へ対応の仕方や、不穏にならない用な環境作りを多職種共有し、職員全員にて注意し対応行っている。	3
3	感染対策委員会 (月1回開催)	①	入居者・職員の感染対策全般に関する事項の協議	感染マニュアルや、手洗い後の洗浄効果の可視化する事で意識付けができた。また、コロナウイルスへの感染対策(消毒等)の強化をその都度行う事で、全職員で感染対策を強化する事ができた。	3
		②	感染対策に関する教育の企画と実施	コロナ禍で会合禁止の為、感染対策に関する資料を配布し資料を参考に実施しレポートを提出する形をとった。	3
4	褥瘡対策委員会 (月1回開催)	①	入居者の褥瘡予防全般に関する事項の協議	看護師を中心に、全職員にてケア方法の情報共有・早期発見できている。	3
		②	その他、褥瘡予防に関する事項の協議	コロナ禍で会合禁止の為、褥瘡対策に関する資料を配布し資料を参考に実施しレポートを提出する形をとった。	3

5	ケース担当者会議 (必要時に開催)		入居者様・家族様の意向等を踏まえ、介護支援専門員が企画立案し、多職種による検討を行う	入居者様・家族様からクレーム等なく多職種と連携を取りケース対応できた。	4
6	入所判定会議 (申込毎に適宜開催)		入居者の紹介があった場合、速やかに入所の諸条件や身体の状態等に関して、関係者による情報の共有化を図り、入所判定結果を速やかに紹介元に連絡	多職種代表を集め入居者判定会議を実施。入所が可能か否か、および優先順位について検討出来ました。身体の状態によっては、施設の受け入れ難しい場合もあった。	3
7	苦情処理委員会 (随時開催)	①	苦情に関する調査や解決策の検討を行う	苦情がある場合には委員会を開催し、解決策を入居者様や家族様へ伝える事でトラブルにならずに解決出来た	4
		②	苦情とならないものであっても、意見等が寄せられた場合には適宜検討を行う	取り入れられる意見は反映できるように取り組んだ。	3
8	給食委員会 (年2回以上の開催)	①	年2回嗜好調査にて、入居者様のニーズを把握し改善に努める	食事形態の変更・テスト食(3日間)を行い、評価結果を改善につなげ、食事摂取量が増えた入居者がいました。また、口腔内のトラブルや、義歯の不具合に築く事が多く見られた。	3
		②	個別での対応等を、多職種にて意見交換し検討、実施する	職員全体で対応を考え、検討・修正・評価し実施していき、観察のポイント見直しが出来た。	3

特別養護老人ホーム 前島

利用者 定員 29名

年間稼働率 95.4% (目標稼働率 95%)

平均介護度 3.7

1. サービス利用実績

(1) 月別利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用人数	29	30	30	29	31	29	30	31	31	31	29	31
入院者のべ日数	13	4	39	20	18	0	10	18	12	15	27	29
のべ利用日数	811	868	802	776	862	870	887	837	868	883	783	861
稼働率 (%)	93.2	96.5	92.1	86.3	95.8	100	98.6	96.2	96.5	98.2	96.4	95.7
入所	2	3	2	0	3	1	1	2	3	2	0	3
退所	2	1	2	1	3	0	1	3	2	2	1	2

(2) 利用者介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計人数	27	29	29	28	28	29	29	28	29	29	28	29
要支援1												
要支援2												
要介護1												
要介護2												
要介護3	12	14	13	12	10	10	11	10	12	11	10	10
要介護4	14	13	14	14	15	16	15	15	14	15	14	15
要介護5	1	2	2	2	3	3	3	3	3	3	4	4
申請中												
平均介護度	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7

2. 施設運営状況

- (1) 7月から8月にかけて施設内でコロナ患者が発生し同階の10名が感染しクラスターとなったが、他階でのコロナ感染は無く広がることはなかった。対策及び結果の振り返りを行う事で今後の施設運営に繋げる事が出来た。
- (2) コロナ禍で外部研修の参加は減少ではあったが施設での内部研修を強化し全職員で学ぶ事が出来た、また勉強会を実施しその中で自己評価までを行い、各職員の改善点や目標などを明確化

する事で業務に活かすことが出来た。

3. 利用者支援状況

- (1) 日々の申し送りや業務ミーティングにて情報共有に努め多職種連携を行った。入居者個々のケアについて検討し、適切な介護と健康管理を行う事が出来た。
- (2) コロナ禍で日々のレクリエーションに関しては各階での小規模での実施ではあったが毎月のイベントに関しては、感染対策を行いながら実施する事が出来た。また、外出支援等を取り入れ入居者満足度の向上に努めた。
- (3) 感染対策を強化している中、家族様の要望に応えられるよう、多職種連携で適宜検討をおこなった。また、家族様との交流は窓越しの面会を実施。電話等で入居者様の生活状況を伝えることが出来た。
- (4)

4. 行事・レクリエーション

	行事		行事
4月	手工芸・おやつ会	10月	ハロウィン
5月	母の日	11月	10月・11月・12月誕生日会
6月	4・5・6月誕生会 父の日	12月	クリスマス忘年会
7月	七夕夏祭り	1月	新年会
8月	7・8・9月誕生会	2月	バレンタイン節分
9月	敬老会	3月	外出支援 1・2・3月誕生会

5. 職員研修

実施月	研修内容
4月	介護サービスとリスクマネジメント
5月	論理・法令遵守
6月	非常災害を想定した消防総合訓練
7月	食中毒について
8月	認知症利用者の理由を探る認知症ケア
9月	介護現場で求められる接遇・マナー
10月	感染症予防
11月	権利擁護・虐待・身体拘束について
12月	消防訓練(夜間帯想定)
1月	急変時について 事故対応について
2月	褥瘡予防について
3月	高齢者虐待を防ぐための基礎知識と施設づくり

実践報告

1) 重点目標

実践報告（4できた 3まあできた 2あまりできなかった 1できなかった）

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	適正な運営	①	施設設備、人員配置などの基準の確保	退職者が出た際、採用担当者（人事課）へ報告し速やかに人員補充に努め、基準の確保を行なうことが出来た。	4
		②	職業倫理や法令遵守	施設内研修を実施し学ぶことが出来た。また、日々のミーティングにて周知を行い、全職員で共通認識を図ることが出来た。	4
		③	連携体制の確保	関連事業所、協力医療機関とオンラインを活用することで上手く連携を図ることが出来た。	3
		④	秘密保持及び個人情報の適切な取り扱い	施設内研修を実施し学ぶことが出来た。また、管理者や主任の指導のもと個人情報保護に関して全職員が意識して取り扱う事が出来た。	4
		⑤	緊急時・災害時対応	6月、12月に防災、災害訓練を行い、施設の備蓄や日常点検チェックシートを活用し日頃から防災に関し意識して取り組む事が出来た。	4
		⑥	自己評価・点検の実施による改善	施設自己評価を活用し課題を抽出、目標設定を行った。年度末（3月）には目標に対して評価を行い業務改善に取り組むことが出来た。	4
2	サービスの質の向上	品について 設備・物	プライバシーに配慮した空間づくりを意識して、職員目線ではなく実際にそこで生活している入居者様の視点に合わせて設備を整える	施設内研修を通してプライバシーに関する教育、指導を行うことで、課題を意識して取り組みを実施する事が出来た。	3

			車いすやテーブルなど、定期点検を行う等して、清潔で安全に使用できるように管理を行う	居室環境や車いす等の安全点検チェック表を作成し定期点検を行った。不具合があった際には速やかに修理等の対応をすることが出来た。	4
			入居者様や家族様が安心して、落ち着ける空間(居室・共有スペース)や雰囲気を楽しめる様、季節に応じた飾りつけを行い提供する また、整理整頓や清掃に心がける	レク・行事委員会を中心に各共有スペースへ季節に応じた飾りつけを積極的に行った。入居者様が安心して、落ち着けるよう四季様々な空間を提供する事が出来た。	3
	ケア内容について		日々の状態観察を多職種と連携し、統一した介護サービスの実施と個々のニーズの実現に努め、安心安全のケアを提供する	朝、夕の申し送り時に日々の状態の変化を多職種と共有。申し送りノートを活用し、月1回の業務ミーティングを行なうことで意見交換が出来、ケアの統一に努める事が出来た。	3
			個別ケアの充実を図るために、入居者様一人ひとりの意志及び人格を尊重し、自宅にいた頃と変わらない暮らしぶりが継続できるように支援する	入所時のアセスメントとし自宅での様子や入居者様の状態等を詳しく家族様及び担当者より聞き取り、支援計画書を作成する事が出来た。 ユニット型施設の特徴を活かし入居者様一人ひとりに寄り添った適切な個別のケアを提供することが出来た。	3
	レクリエーションについて		入居者様の趣味趣向を鑑みて、行事レクの企画運営を実施する また、季節に応じた行事を取り入れ、日々の生活を楽しめるように支援する	レク・行事委員会を中心に毎月のイベント、レクを行い季節に応じた行事を行うことが出来た。また、コロナ禍ではあったが感染状況に応じ外出支援(ドライブ)等を行い入居者様の満足を得られる事が出来た。	4

		<p>集団及び個別レクは、入居者様のその日の状態に応じて無理のないよう実施する</p>	<p>日々の健康管理のもと看護師と連携を図り実施出来た。</p>	4
		<p>レクを通じて身体を動かすことを生活リハビリのひとつとし日常生活の中で積極的に実施する（体操レク等）</p>	<p>各ユニットでの手工芸や音楽鑑賞等を行い、入所者様同士交流を深める事が出来た。</p>	3
		<p>感染症拡大防止対策により、家族様との交流が減少しないように入居者様の生活状況がわかるようレク実施の際は、写真や動画の撮影を行い見える情報提供を工夫し対応する</p>	<p>窓越し面会時に入所者様の日々の様子をご家族様へお伝えすることが出来た。また、行事等の写真を定期的に郵送または、面会時にお渡しする事で施設での情報提供に努めた。</p>	4
	職員の能力向上について	<p>職員同士でケアや業務等についての見直しを行いサービスの向上に努めるよう業務日誌、連絡帳や日々の申し送りを重視する</p>	<p>朝、夕の申し送り及び療養日誌、申し送りノートを各職員が確認し業務にあたる事が出来た。また、業務ミーティングを行なうことで多職種での意見交換も出来た。</p>	3
		<p>全職員がヒヤリハットや事故にもとづきリスクマネジメントを行うことで危機管理能力を向上させ、事故等を未然に防いでいく</p>	<p>事故が起きた際、全職員が対策案を記入する書式を作成し、実施する。施設全体で危機管理能力を向上することが出来た。</p>	3
		<p>新入職員に施設内勉強会への参加を奨励することで、介護職員の資質・専門性を伸ばす</p>	<p>新入職員に対して各マニュアルを配布する。毎月の施設内研修を通して介護の専門的な知識を学ぶ取り組みを実施。</p>	3

			個別研修計画を作成し、職員一人ひとりが設定した目標について目標達成度の確認を行う	研修報告書、個別目標、年間目標表を活用し実施、指導を行う。また、主任・管理者と面談を行いフィードバックすることで職員のモチベーション向上にも繋げることが出来た。	4
3	地域との連携	①	感染症拡大防止対策の中ではあるが、地域行事等の情報を取り入れ積極的に参加と交流を深めていく	地域行事等の開催情報を積極的に収集し外出支援の計画、実施を行った。	4
		②	感染症拡大防止対策により、運営推進会議は書面で開催し情報提供を行う参加者、地域の方から積極的な評価、要望、助言等を拾えるよう意見照会を行う	年6回、運営推進会議を書面で開催し施設の情報提供を行なうことが出来た。	3
4	利用者満足度の向上	①	入居者様の生活の潤いとして、生活の目標や生きがいとなるように年中行事やレクリエーションの充実を図り、事前の広報にて楽しみにつなげる	年間行事計画を作成し、入居者様へ毎月のイベントの広報を行い実施。 日々のレクリエーションは、各ユニットにて音楽鑑賞や手工芸など個別レクの充実を図ることが出来た。	3
		②	感染症拡大防止対策により、家族様との交流が減少しないよう施設からの連絡を密に行う また、面会は窓越しやリモート面会を実施し入居者様、家族様が安心できるよう努める	家族様へ積極的に窓越し面会の案内を行い実施することが出来た。 また、面会に来られない家族様には、入居者様の日々の様子や状態の変化など電話連絡で情報提供に努めた。	4

2) 個別目標

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	介護	①	日々の状態観察を多職種と連携し、統一した介護サービスの実施と個々のニーズの実現に努め、安心安全のケアを目指す	朝・夕の申し送り時に入居者様の状態または経過などを申し送る事で、統一した介護サービスを実施した。	3
		②	職員のスキル・連携体制を高める為、年間勉強会の参加率を上げ、職員個人目標を達成する	年間研修計画にもとづき施設内研修を開催し、自己評価を行うことで目標達成までのスキル向上に努めることが出来た。	3
		③	地域の祭りや季節を感じられるスポットへの外出支援を計画し、入居者様の気分転換や満足度の向上を図る	外出支援を計画し実施。住み慣れた地域をドライブすることで、入居者様の満足度向上に努めることが出来た。	4
		④	入居者様一人ひとりのADLに合った介助方法を検討し、勉強会を実施する	施設内研修にて移乗動作など実際の実技的指導・教育を行い、入居者様一人ひとりのADLに合った介助方法を学ぶ事が出来た。	4
2	看護	①	入居者様が安心して生活できるように、個々のニーズに合った適切な医療・看護を提供する	日頃から入居者様と密にコミュニケーションを図り、健康状態の観察を行った。主治医に情報提供を行い必要に応じた個々の医療を提供することが出来た。	3
		②	医師への相談をこまめに行い、施設にて多職種との連携を図り、情報を共有する。	入居者様、家族様の意向や状態変化もふまえた上で主治医と密に連携を図ることが出来た。また、その結果を多職種と情報共有することが出来た。	3
3	機能訓練	①	入居者様の思いに寄り添いながら、訓練への参加を支援する	入居者様と日々のコミュニケーションを通して意向を傾聴することで、訓練メニューを検討し実施する事が出来た。	3
		②	入居者様のADL能力を他職種で情報共有し、新し	他職種と情報共有を行う事で課題を明確にする事が出来た。	4

			い目標設定しやすい環境作り		
		③	日常生活動作でも訓練できるように機能訓練士含めた他職種からの助言	日常的な立位動作などでも訓練に繋がるよう他職種へ助言、情報共有行なうことで適切な訓練方法に繋がった。	3
		④	楽しく、笑顔ある機能訓練を行うため、従来のトレーニング以外のメニューの充実化を図る	従来訓練以外にボールを使った訓練、パズルや手工芸等の手先の運動訓練も行う事が出来た。	4
		⑤	体力の維持・向上のため、訓練への参加継続を支援していく	運動訓練が困難な入居者様に対し、マッサージや可動域訓練を重点的に行う事で継続した訓練をする事が出来た。	3
4	生活相談	①	入退去に関して、入居者様やその家族様が不安なく安心できるような案内ができるよう配慮し対応する	入居相談では入居生活がイメージできるよう説明し、退居に関しては家族様と一緒に転居先を考える事が出来た。	4
		②	入居者様やそのご家族様等との関りを密にし、信頼関係を築いていく	日常的にこまめに電話連絡を行い来所された際には、日常の様子などを伝えることが出来た。	4
		③	多職種と連携を図り、入居者様の状況把握に努め、サービス向上に繋げる	日々の申し送りや業務ミーティング通して、多職種連携を図り入居者様の状況把握に努め、サービス向上に繋げることが出来た。	4
5	介護支援専門員	①	施設サービスだけでなく、行政・近隣地域等のボランティア等、社会資源を有効に活用し、プランに取り込むことで、施設生活でも意欲向上・満足度向上を目指す	インフォーマルなサポートの情報を収集し必要時にはプランに取り込むことで、入居者様の意欲・満足度の向上に努めることが出来た。	3
		②	協力医療機関（歯科）との連携を図り、高齢者の口腔ケアや摂食・嚥下機	訪問歯科と連携を図ることで入居者様の口腔内の状態を把握することが出来た。また、口腔ケア等の	4

			能を考え、機能や清潔の維持・向上にて、QOL・ADLの維持・増進を目指す	助言を頂き多職種と情報共有を行うことで、入居者様の口腔内を継続し清潔に保つことが出来た。	
		③	外部・内部研修に積極的に参加し、より多くの知識を習得し、入居者様・家族様へ必要な情報を適切に提供できるようにする	施設内研修に参加することで多くの知識を習得することが出来た。また必要な情報は、家族様へ適切に提供することが出来た。	3
		④	入居者様・家族様とのコミュニケーションを密にし、傾聴に努め、正確なニーズの汲み取りを行い、適正な支援が行われるように、多職種連携に努め、満足度の向上を目指す また、適正な記録を行い、多職種との情報共有に努める	入居者様、家族様とコミュニケーションを通して要望等に傾聴することで、入居者様の抱える現状の課題を明確に把握することが出来た。また、多職種と作成したプランを情報共有することで適正な支援に努めることが出来た。	3
6	栄養	①	入居者の状態の変化に応じた食事の提供を行う	食事の提供状況摂取量の観察を行い、入所者様や職員からの聞き取りを通じて変化等があるときには、早急な対応が出来た	4
		②	定期的な嗜好調査や日々のコミュニケーションにて入居者様や家族様等の意見を傾聴し、できる限り希望に添った食事を提供できるように、給食委託会社と連携し、多職種との検討にて対応する	入所者様との日々のコミュニケーションや食事介助時に要望を伺い給食委員会様へ相談の連絡し食事の提供に繋げる事が出来た 対応が難しい要望に関して家族様への差し入れの相談を行い対応した また行事食等を依頼する事で要望の多かった年越しそばを提供し満足度向上につなげる事が出来た	4
		③	食堂の環境整備に工夫・配慮が出来るように提案・実施する	食堂などの共有スペースには季節に応じた飾りつけを行い食事中でも季節感を感じてもらえるよう工夫を行った。	3

		④	季節感を感じてもらえるように、イベントや個人の誕生日等にて、コミュニケーションツールを活用するなどして工夫を行う	行事・レク委員と連携を行いイベントや誕生日会には飾りつけ、BGMを流すことで雰囲気を楽しんでもらった。また、家族様とのコミュニケーション時にはイベント時の写真や動画を見せることで工夫を行った。	3
		⑤	災害発生時の備蓄食の整備をする（給食委託会社との連携）	定期的に備蓄の賞味期限、個数を計算して必要に応じ施設内で保存入れ替えを行う事が出来ている	4
7	事務	① 受付業務	生活相談員・介護支援専門員との連携を図り、入居者様・家族様への丁寧な説明や正確な情報提供に努める	家族様が来所出来ない場合には、主に電話にて情報提供を行った。	4
		② 労働環境整備	職員の健康管理：年一回の健康診断の実施（夜勤業務がある場合は年2回）	全職員を対象とした健康診断を実施した。 また、新入職者には入職前の健康診断を促し実施してもらった。	4
			有給休暇の適正な取得	職員には年5回の有給休暇取得をしてもらった。また、有給希望があった際にはその都度対応を行った。	3
			防災訓練の実施（年2回以上）	6月に災害も想定した防災・防火訓練、12月には夜間想定火災訓練を実施した。	4
			定期的な設備点検（防災・エレベーター等）	業者にて定期点検実施。点検報告書の整備も行った。	4
		③ 備品管理	修理や購入の依頼検討等、メンテナンスを行い、備品の管理を行う	故障や不具合が生じた際は速やかに業者へ連絡し対応した。	4

			メンテナンス等は定期的で継続して行えるようチェックリスト等を活用して実施する	備品のチェックリストを作成し活用できた。	3
		④ 人事業務	適正な人員配置を維持 (求人・採用等)	人員状況を把握し、長期的な視野での管理を行い採用活動に反映させた。	3
			働きやすい環境の整備 (職員の育成、面談等)	介護経験が浅い職員に向けたマニュアル等を作成し配布。経験が長い職員と業務を行い、育成する環境作りに努めた。	3

3) 会議・委員会

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	安全対策委員会 (月1回開催)	①	入居者様・職員の安全対策全般に関する事項の協議	委員会にてヒヤリハット、事故報告書をもとに事故分析、対策、継続の協議を行い、事故再発防止に努めた。	3
		②	安全対策に関する教育の企画と実施	年間研修計画にて安全対策にかかわる研修を実施、リスクマネジメントに努めた。	3
2	身体拘束廃止委員会 (月1回開催)	①	入居者様の身体拘束廃止全般に関する事項の協議	新規の入居者様で身体拘束歴や身体に危険が及ぶ可能性がある場合には、身体拘束を行なうことなく事前の委員会にて代替策を検討し実施した。	4
		②	入居者様の行動制限廃止全般に関する事項の協議	委員会にて情報共有し、日々の支援の中で行動制限が行われていないかの分析、対策を行った。	3
3	感染対策委員会 (月1回開催)	①	入居者様・職員の感染対策全般に関する事項の協議	感染症発生時には委員会を中心に対応、対策を行った。また、感染症が収束した際には改善点などの検討を行った。	4
		②	感染対策に関する教育の企画と実施	施設内研修では委員会が講師となり感染症(インフル、疥癬)	3

				等の教育を行なうことで全職員の知識向上に努めた。	
4	褥瘡対策委員会 (月1回開催)	①	入居者様の褥瘡予防全般に関する事項の協議	褥瘡に限らず皮膚トラブル等を早期発見し委員会を中心に検討し対応。早期の完治に繋げ褥瘡予防に努めた。	3
		②	その他、褥瘡予防に関する事項の協議	褥瘡の予防には栄養状態の改善、リハビリりなど多職種の協力も必要な為、委員会を中心に多職種も交えた協議を行った。	4
5	ケース担当者会議 (必要時に開催)	①	入居者様・家族様の意向等を踏まえ、介護支援専門員が計画を立案し、多職種による検討を行う	入居者様や家族様からの意向を踏まえ課題を抽出、プランを立案。会議にて他職種と共通の認識を持つことで、課題点の解消・軽減に努めることが出来た。 また、入居者様の状態が大きく変化した際には適宜、会議の開催を行った。	3
6	入所判定会議 (申込毎に適宜開催)	①	入居者様の紹介があった場合、速やかに入所の諸条件や身体の状態等に関して、関係者による情報の共有化を図り、入所判定結果を速やかに紹介元に連絡	紹介を頂いた場合、速やかに入所の諸条件や身体の状態等の確認を行なうことが出来た。入所判定については、空床の見通しがついてから開催を行った。	3
7	苦情処理委員会 (随時開催)	①	苦情に関する調査や解決策の検討を行う	苦情が寄せられた場合には、受付担当者を通して委員会にて検討し解決を行った。	4
		②	苦情とならないものであっても、意見等が寄せられた場合には適宜検討を行う	入居者様や家族様から要望・意見等が寄せられた場合にも委員会にて検討を行い、必要時には多職種にて解決を行った。	3
8	給食委員会 (年2回以上の開催)	①	年2回嗜好調査を行い、入居者様の好みや嚥下状況に合わせた食事の提供が行えるように、献立の見直しや調	嗜好調査、食事介助時のコミュニケーションから得た、好みや要望等を給食委託業者へ報告・相談し改善に努めた。	3

			理法の改善を検討・実施する		
		②	栄養管理・衛生管理	体重観察や食事摂取量を確認し、入居者様の要望等取り入れ、多職種と検討した上で形態変更などを行った。	3
9	運営推進会議 (年6回開催)	①	日常サービスの提供内容や定例行事の実施報告	年間スケジュールを計画し配布。感染対策上、書面開催にて行った。議事録や資料等も届出を行うことが出来た。	4

有料老人ホーム 星の館

利用者 定員 97名

年間稼働率 58% (目標稼働率 100%)

平均介護度 4.04

1. サービス利用実績

(1) 月別利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用人数	86	66	69	66	64	69	69	66	70	73	82	85
入院者のべ日数	349	402	369	243	291	336	460	437	313	377	429	58
のべ利用日数	1845	1638	1581	1790	1707	1619	1607	1547	1738	1815	1629	2124
稼働率 (%)	63	54	54	59	56	55	53	53	57	60	59	70
入所	3	2	5	1	0	5	4	2	7	4	13	6
退所	22	2	4	2	0	4	5	3	1	4	3	4

(2) 利用者介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計人数	86	66	69	66	64	69	69	66	70	73	82	85
要支援1												
要支援2												
要介護1												
要介護2	3	3	3	3	3	3	3	3	5	5	7	8
要介護3	15	14	14	14	13	13	13	14	14	16	16	17
要介護4	35	27	28	25	25	28	28	26	26	28	31	31
要介護5	33	22	24	24	23	25	25	23	25	24	28	29
申請中												
平均介護度	4.13	4.03	4.05	4.06	4.16	4.08	4.08	4.04	4.01	3.97	3.97	3.95

2. 施設運営状況

(1) 稼働率については、令和5年3月のみが70%で、令和4年4月から令和5年2月は50～60%台と大幅な低下となった。令和4年5月で協力医療機関の訪問看護部が廃止となり、医療度の高い入居者様が退去後、新型コロナウイルス感染が発生し入居調整期間が長期になったことが要因。

(2) 日々、職員の検温、行動履歴の記録やアルコール消毒徹底などの新型コロナウイルス感染対策強化を行うことで、職員一人ひとりの意識付け及び質の向上を図った。また、ZOOMなどのオンラインを活用し、協力医療機関の感染対策本部から情報収集を行うことで感染対策を臨機応変に行った。

3. 利用者支援状況

- (1) デイサービス利用の入居者様については、関連事業所のデイサービスとの間で連絡帳を活用して、日々情報の共有化を図っている。また、訪問看護とは入居者様に対しての気づきを2回（朝・夕）の申し送り等で情報共有することで早期発見・早期対応することが出来ている。
- (2) 重度入居者様へのコミュニケーションには、表情や身振り手振りなどの非言語的コミュニケーションを活用した。
- (3) 職員での環境整備を実施することが出来た。感染症対策強化に努めることで、安心・安全な環境作りを行うことが出来た。
- (4) 新型コロナウイルス感染対策のため、窓越しでの面会を積極的に実施し、日常生活の様子や体調の変化などを電話で細かくお伝えすることが出来た。

4. 行事・レクリエーション

	行事		行事
4月	行事飾りつけ（春の花、風景等）	10月	行事飾りつけ（運動会等）
5月	行事飾りつけ（こどもの日、鯉のぼり）	11月	行事飾りつけ（秋の風景）
6月	4・5・6月誕生会	12月	10・11・12月誕生会
7月	行事飾りつけ（海の日、風景等）	1月	行事飾りつけ（お正月）
8月	行事飾りつけ（山の日、風景等）	2月	行事飾りつけ（節分）
9月	7・8・9月誕生会	3月	1・2・3月誕生会

5. 職員研修

- (1) 職員の内部研修については、その都度事例を捉えて、意見交換の時間を設けている。また、参加出来なかった職員へは参考資料を配布し、報告書の提出にて補習を行った。
- (2) 内部研修で学んだことは、日々の業務内や申し送り等でも周知を行い職員同士で意識付けを行った。

	研修内容
4月	心肺蘇生・AEDの取扱いについて
5月	認知症について
6月	ヒヤリハット・事故発生時における対応について
7月	身体拘束・高齢者虐待防止について
8月	褥瘡予防について
9月	接遇マナー・プライバシー保護について
10月	入居者様、緊急搬送時の対応について
11月	感染症対策（コロナウイルス・疥癬）について
12月	デイサービスとの連携について

1月	入居者様、家族様の満足度向上について
2月	多職種との業務連携について
3月	苦情・要望について

実績報告

1) 重点目標

実践報告（4できた 3まあできた 2あまりできなかった 1できなかった）

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	適正な運営	①	感染症の予防や発生時における安全確保の体制を見直し、整備することでさらなる感染対策強化を図る	感染症発生時における安全確保の体制を再度見直し、整備することで感染対策強化を図ることが出来た。	3
		②	職業倫理や法令遵守	ミーティングで周知を行い、全職員で共通認識を図ることが出来た。また、ルールを守り安心・安全な運営を行なうことが出来た。	4
		③	秘密保持及び個人情報の適切な取り扱い	個人情報の保管、管理は適切に行えた。また、秘密保持についても日々の申し送り等で、全職員に対して周知を行っている。	4
		④	緊急時・災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行う	年2回（9月・3月）非常災害も含めた防災訓練を実施。また、法人の関連施設も含めた防災会議を開催し災害・防火計画書の見直しも行うことが出来た。	4
		⑤	自己評価・点検の実施による問題点の改善	施設自己評価シートを活用し、課題抽出行ない目標を設定することで問題点の改善を行なうことが出来た。	3
2	サービスの質の向上	設備・物品	設備・物品の保守点検を定期的に（年2回）行う	施設にて保守点検管理簿を作成。全職員で意識することで点検の強化を図ることが出来た。	3
			保守点検の記録及び物品等を管理できるよう、当事業所での台帳を作成し適切に管理する	施設にて保守点検管理簿を作成。物品の保守点検を行い速やかに修理等に繋げることが出来た。	3

	ケア内容について	入居者様のプライバシー保護及び権利擁護に配慮したケアの実践	入居者様の居室清掃や持物の整理整頓を行う際にはプライバシー保護を意識しながら入居者様に確認しながら行った。	3
		入居者様・家族様の希望・要望を聴き、ニーズを確認しながらその人らしいより良い生活が出来るよう支援を行う	入居者様と日々のコミュニケーションの中で要望等がないか傾聴を心掛けた。また、要望にはお応えできるよう多職種と情報共有し支援を行なった。	4
		職員一人ひとりが自らの支援を見つめ直し、再認識することで入居者様・家族様の希望や思いに沿った支援を行う	入居者様のアセスメントシート等を全職員で確認、情報共有。入居者様が抱えている課題を明確にすることで希望に沿った支援を行なうことが出来た。	4
		関連事業所（主にデイサービス）との連携と共通認識の強化を行う為連絡帳を活用し、日々入居者様の状態変化に気づけるよう支援を行う	連絡帳を活用することで入居者様の状態変化を日中、夜間共に途切れることなく関連事業所と情報共有することが出来た。	3
		訪問看護師との連携を強化し、日々の健康観察にて異常の早期発見・早期対応により重症化の予防に努める	入居者様の日々の健康状態を申し送りにて看護師と情報共有し主治医へ報告することで入居者様の重症化予防に努めることが出来た。	3
	上について	職員の能力向上について	サービス向上を図る為、職場内研修を実施する必要に応じてオンラインを活用した外部研修にも積極的に参加する	年間研修計画を作成し毎月、内部研修を実施し報告書を作成、管理者への提出を行った。

			<p>組織の目標や方針を明確にし、職員一人ひとりの目標を設定する</p> <p>また職員一人ひとりの目標の設定は、「目標項目・目標水準・目標期限」が明確にされた適切なものとなるようにする</p>	<p>職員一人ひとりに年間の個別目標を設定してもらった。年間目標は目標項目・目標水準・目標期限が明確にされているかの確認を行った。</p>	3
			<p>職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど適切に進捗状況の確認をおこなう</p>	<p>中間時には、職員一人ひとりが設定した目標に対して、自己評価を行ってもらった。</p>	2
			<p>職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末に面接を行うなど目標達成度の確認をおこなう</p>	<p>年度末（3月）に管理者が目標達成度の確認を行なうための面接を行った。</p> <p>また、面接の中で年間の振り返りを行い次年度に向けての個別目標の確認も行った。</p>	4
3	外部との連携	①	<p>入居者様により良い福祉サービスを提供するために必要となる、関係機関との機能や連絡方法を体系的に把握し、連携を適切に行う</p>	<p>行政・医療機関など施設を取り巻く福祉サービスの全体像を把握した上で、機能や連絡方法など記載した表の作成を行った。</p>	4
		②	<p>感染症対策により家族との交流が途絶えないように、入居者様・家族様の不安軽減の為、施設からの連絡を密に行い、安心できるよう努める</p>	<p>感染対策により窓越しでの面会ではあるが積極的に面会を促して実施した。その際には日々の様子や状態変化などをお伝えすることが出来た。</p>	3
		③	<p>感染症拡大防止対策として協力医療機関や関連施設とはオンラインを活用し情報共有を行う</p>	<p>協力医療機関や関連施設等も含め、会議など必要な情報は ZOOM などのオンラインを活用することで情報共有をすることが出来た。</p>	4

4	入居者様満足度の向上	①	入居者様満足度を把握する為に個別の面談・聴取を行う	入居者様と日々のコミュニケーションの中で要望等も含め施設生活の満足度を聞き取ることを行った。	3
		②	入居者様の状態に応じたコミュニケーションの工夫と実践	入居者様と視線を合わす、表情や仕草にも気を付ける。また、非言語的コミュニケーションを用いることで、状態に応じたコミュニケーションを実践することが出来た。	4
		③	四季を感じられるような飾りつけや BGM を流すなど、雰囲気を感じてもらえるよう工夫する	食堂、廊下など共有スペースには飾りつけを行い、食事時には BGM を流すなど入居者様に四季を感じてもらえるよう工夫を行った。	3

2)個別目標

1) 実践報告 (4できた 3まあできた 2あまりできなかった 1できなかった)

No	項目	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	介護	一人ひとりの入居者様にとって生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、利用者の残存機能を活かした支援を行うことで身体の維持向上を図る	入居者様の残存機能を活かしつつ必要な部分のみ介護を行ない、入居者様が自分だけの能力で日常生活を送れるよう支援を行なった。	3
2	看護	協力医療機関や訪問診療医と連携を図り、入居者の健康維持及び日々の状態変化の早期発見に努める	協力医療機関や主治医と密に連携を図ることで感染症発生時にはスムーズな対応が行えた。また、入居者様の状態変化の早期発見に繋げることが出来た。	4
3	生活相談員	各職種との連携を密に行い、入居者様・家族様を支援する。家族様との関わりを大切に、相談しやすいよう環境作りに努め、入居者様の不安、家族様の負担軽減を図る	日々、他職種と連携を図り情報共有を行うことで入居者様の様子を家族様へ電話連絡にて適宜お伝えすることが出来た。 また、家族様が来所する際には要望等がないか傾聴するよう心掛けた。	4
4	事務	窓口、電話等の外部からの問い合わせにおいて丁寧に対応する 正確、迅速、丁寧な事務処理に努める	報告・連絡・相談を徹底し、外部からの来訪者対応や関連施設等からの問い合わせについても記録に残すことで他職種へ繋げることが出来た。	4

3) 会議・委員会

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	安全対策委員会 (月1回開催)	①	入居者・職員の安全対策全般に関する事項の協議	ヒヤリハット・事故報告書をもとにリスクマネジメント、事故再発防止に努めることが出来た。	4
		②	安全対策に関する教育の企画と実施	事故対策、虐待防止等も含めての内部研修を開催し職員の知識向上を行った。	4
2	身体拘束廃止委員会 (月1回開催)	①	入居者様の身体拘束廃止全般に関する事項の協議	身体拘束は行うことがなく、事前の委員会にて代替案を検討し実施することが出来た。	4
		②	入居者様の行動制限廃止全般に関する事項の協議	日々の支援の中で、入居者様の行動を言葉で制限を行っていないかの検討も行った。	3
3	感染対策委員会 (月1回開催)	①	入居者様・職員の感染対策全般に関する事項の協議	感染症発生時には委員会を中心にスムーズに対応することが出来た。また、感染症が収束した際には改善等も含めて委員会にて検討を行った。	4
		②	感染対策に関する教育の企画と実施	協力医療機関と連携を図り感染症対策の知識向上を行った。	3
4	褥瘡対策委員会 (月1回開催)	①	入居者様の褥瘡予防全般に関する事項の協議	褥瘡に関する基礎知識を持ち、日常的な介護において褥瘡発生の予防について配慮するよう委員にて協議を行った。	2
		②	その他、褥瘡予防に関する事項の協議	委員会にて褥瘡予防のためのマニュアル類は見直し再整備を行った。	3
5	苦情処理委員会 (随時開催)	①	苦情に関する調査や解決策の検討を行う	全職員が意見や要望を聞き取る体制を作り、意見や要望がでた際には委員会にて検討し解決を行った。	3

		②	苦情とならないものであっても、意見等が寄せられた場合には適宜検討を行う	意見等は日々の申し送りにて報告・連絡・相談を行い苦情になる前に早期対応、解決することが出来た。	4
8	運営委員会		入居者満足に関する調査が行われ、把握した結果を分析・検討するための会議を行う	入居者様・家族様から聞き取りした結果を全職種で共有し分析・検討を行うことが出来た。	3

那覇市地域包括支援センター新都心

新都心地区

総人口 15,180人 (内) 65歳以上 2,104人

高齢化率 13.5%

1. 総評

地域に住まわれる65歳以上の高齢者の把握や支援を行い、介護予防・認知症予防周知活動を行った。今年度も、新型コロナウイルスにより外出自粛要請等が長期化する中、高齢者の多くが外出を控え活動量が低下し、他者との交流の機会も減ってしまっている状況であった。センターの活動において計画していた事業が休止となる影響もあったが、感染対策を講じ介護予防の取り組みや高齢者の見守り、地域との連携等を創意工夫しながら実施した。コロナ禍での高齢者の課題の対策として、地域の方と協議しながら「新都心お散歩マップ」を作成するなどの成果を得られた。

2. 重点実施事項の取組と成果

(1) 介護予防把握事業

① 新型コロナウイルス感染防止のため、対面での訪問活動は積極的には行えてこなかったが、ポスティングによるセンターの案内や介護予防の取り組みを周知するなどに対応。支援が必要な方には総合事業への促しや、自宅近くへのふれデイ、教室への誘導を行った。

② 総合事業の団体周知を企業や集会に参加するなどして、周知を行った。

(2) 介護予防普及啓発事業

新型コロナウイルスの影響で、計画していた介護予防教室の休止を余儀なくされた。介護予防に関する取り組みが思うように行えないか、地域の高齢者が自主的な介護予防活動に取り組めるよう介護予防の関する資料・パンフレットをご自宅へ投函し介護予防への取り組みの普及啓発に努めた。

(3) 地域介護予防活動支援事業

地域の健康サークルの続支援を行い、銘苅地区、天久地区にて健康サークル活動が継続されている。

(4) 見守りネットワーク事業

支援台帳に追加するが、特に支援が頻回訪問による支援の必要性はなく半年や1年に1回状況を確認している。支援台帳の整理を行い対象者の確認を行う必要がある。

(5) 地域ケア会議（包括開催）

①日常生活圏域ケア会議（協議体）にて、コロナ禍で運動機会が減ってしまったことでの運動機会を得るきっかけとなるため、新都心お散歩マップを作成。地域住民への配布も行えた。

②個別事例検討会議が少ないが、委託先が少なく包括内のプランナーとの個別事例検討会議を行っているが、プランナーとの検討会議は実績とならない為、回数が少ない。

(6) 包括的支援事業

ケアマネジャーの後方支援が、包括新都心単独では行えていない。委託先居宅の協力も必要なため、今後は実施できるように環境を整える。

(7) 認知症総合支援事業

認知症カフェについては新型コロナウイルス感染予防のため中止となる事が多く、年度3回の開催となった。少数開催の中でも参加者同士が交流し楽しめるプログラム工夫し、コロナ禍で閉塞感のある生活の中でも参加している間は笑顔で過ごせてもらうことができ心身のリフレッシュにつながる事ができた。また、認知症に関する多職種研修はではリモートを用いて研修・勉強会を開催することができた。

(8) 生活支援体制整備事業

高齢者が多く生活され多問題世帯が潜在する公営住宅の自治会と連携を図るよう心がけた。気になる高齢者についての相談を受け支援につながる、といった結果も得られた。また、高齢者の生活において地域にあったらいいなというサービスを個別事例からピックアップし把握に努めている。

(9) その他・センター独自の活動

まちづくり協議会への定例会に参加し、地域の関連機関とのネットワーク構築に努めている。

実績報告

1) 重点目標

実践報告（4できた 3まあできた 2あまりできなかった 1できなかった）

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	適正な運営	①	施設設備、人員配置などの基準の確保	施設の設備は確保できているが、人員配置が確保できなかった。	2
		②	職業倫理や法令遵守	職業倫理や法令遵守に努め、適切な業務を行っている。	4
		③	連携体制の確保	毎朝ミーティングを行い、連絡・相談体制が出来ている。	4
		④	秘密保持及び個人情報の適切な取り扱い	個人情報の持ち出しの際は、返却までを帳票にて適切に管理している。	4

		⑤	緊急時・災害時対応	緊急時や災害時の対応が必要な地域住民の把握に努めている。	3
		⑥	自己評価・点検の実施による改善	自己評価を見直し、改善に努めた。	3
2	サービスの質の向上	①	他地区包括支援センターとの交流の場を作り、意見交換を行う	月1回程度の連絡会・管理者会を行い、意見交換や業務改善について話し合いを行っている。	4
		②	外部研修への積極的な参加	積極的に外部研修へ参加出来ている。	3
		③	気軽に意見交換や情報共有ができるように、できる限り多くの職員が参加できるミーティングを実施する	意見交換や情報共有が出来るよう、毎朝全職員にてミーティングを実施。	4
3	地域との連携	①	地域住民、自治会、まちづくり協議会、近隣の学童等との交流の機会を設ける	自治会、まちづくり協議会等、定期の会議に参加し、近隣学童の職員や自治会職員には地域ケア会議に参加してもらい、交流の機会を設けている。	4
		②	地域の困りごとから、サービスの創設へつなげる	県外からの移住者が多く、交流の場が少ないことから、多世代の地域住民で交流できる活動を行っている。	3
		③	ボランティア団体の育成	コロナ禍の為、積極的な交流を避けていた為、育成できていない。	1
		④	地域住民に対し自助、共助の定着化周知活動、意識付け	継続的な活動により、体操教室や集まりの際、自ら進んで消毒や設営等を行う地域住民が増えている。	4
		⑤	地域との交流時、感染予防の実施・助言	交流の際は、換気や消毒の声掛けや助言等を実施している。	3

2)個別目標

実践報告（4できた 3まあできた 2あまりできなかった 1できなかった）

No	項目	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	主任ケアマネ	自立へ向けたケアマネジメントの定着化 コロナウィルス感染蔓延時での自立支援継続	ケアプランチェック時やケアマネジメント支援会議では自立支援の促しを行った。	4
2	社会福祉士	見守り体制の強化により、権利侵害や高齢者虐待の予防に努める コロナウィルス感染予防によるサービスの利用中止などにより、虐待のリスクも懸念される為、ケアマネージャーやサービス事業所、自治会、民生委員と連携を強化しながら虐待の早期発見に努める	退職や異動などがあり、十分な活動が行えなかったが、自治会等へ足を運び、連携体制の確保に努めた。	3
3	保健師	地域の健康意識の向上、自主的な介護予防の周知 コロナウィルス感染予防及び自粛によるADL低下防止	パネル展や体操教室を開催し、認知症予防や介護予防の周知、ADL低下防止に努めた。	4
4	ケアプランナー	適切なサービスの調整、インフォーマルサービスの活用	主任ケアマネと情報共有を密にし、適切なサービスを調整するよう努めた。また近隣の公営住宅の集まりに参加する等インフォーマルサービスの活用に努めた。	4
5	事務	環境づくり等の専門職の支援	各専門職へ声掛け等行い、支援に努めた。	3

3)会議・委員会

No	項目	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	三職種会議 (必要時に開催)	高齢者虐待、困難事例検討、包括業務方針、地域ケア会議方針決め等	退職や異動に伴い、三職種が揃わない期間があったが、必要時には困難事例検討や地域ケア会議の方針決め等を行った。	3

2	苦情処理委員会 (随時開催)	① 苦情に関する調査や解決策の検討を行う	苦情等無く、検討する機会がなかった。	1
		② 苦情とならないものであっても、意見等が寄せられた場合には適宜検討を行う	地域住民からの要望等があった際は、検討を行い、全職員で情報共有を行った。	3